



菅原家とお月見

今月廿一日は旧暦では八月十五日にあたり、中秋の名月です。一年で最も満月を愛でるのに良き日とされています。

しかし、実は古代の日本では月を見るのは早く年を取るとして敬遠していたようです。古今和歌集で在原業平が歌っているように、古代は月の運行が暦でありましたので、現代人が誕生日が来る度に年を取ったと思うのと同じように月を見ると年月の移ろいを実感したという事なかもかもしれません。

しかし、秋風夜半に輝く満月の魅力は、中国の唐代の詩人である白居易や杜甫などの詩作に読み込まれる中で、八月十五日が詩作の場として特別な日として広がりを見せ、次第に観月の宴へと発展します。

この観月の宴を日本に最初に持ち込んだのが、当宮御祭神の菅原道真公の菅原家であるといわれています。道真公の残した詩集である『菅家文草』に、お月見の事を「菅家の故事」と書かれており、また同時代の紀長谷雄の言葉にも「管師匠は(中略)一家の月を翫あそぶ」と書かれており、お月見が菅原家の特許のように云われています。この事から、一説には、「かぐや姫」の物語の原作者は実は道真公ではないかという説もあります。

このように、菅家から始まった日本のお月見。現代では津々浦々に至るまで広がりましたが、その観月の宴の原点である、詩作などの芸術センスを磨いていたという点にも思いを致し、ぜひコロナ禍の十五夜、親しい人と離れていても、同じ空に輝く月を愛でながら、芸術について語り合う日としたいものです。



コロナ禍 御旅社の社務について

一般から猛威をふるっております新型コロナウイルスですが、今号執筆時点におきましては、社務の方は、茶屋町の御旅社においては土日午後一時〜五時で授与所の受付、それ以外の日はその時々とさせて頂いておりますが、今後の状況次第では受付全面中止となる可能性もございます。その節には何卒悪しからずご了承下さいませ。

※九月五日(土)、十一日(土)、十二日(日)は社務の都合で御旅社の授与所終日休止致します。

御本社東側 玉垣奉賛事業

神山町の当宮御本社では、境内東側に玉垣を建立する事業を現在進めております。

この事業はもともと、平成三十年の台風被害で本殿大屋根、稻荷社屋根など、各所に被害が及び、その修復費用等の為に始められましたが、その後のコロナ禍により、工事の延期が続き、ようやく本年になって取り掛かれる段取りとなりました。

基本的には当宮の古くからの崇敬者の方々が優先に寄進のご案内致しておりますが、奇しくも本年、当宮主祭神の嵯峨天皇さまが、当地を行幸されましてから一千二百年の慶節に当たる事から、範囲を拡大し、ご希望の方にもご案内をさせて頂く形となりました。

この令和の御代、梅田の大神さまの御神前に名前を残す貴重な機会となります。ご希望の方はご案内をお送りさせて頂きしますので、左記事務局まで「玉垣奉賛のご案内を送付下さい」とご連絡下さいませ。追ってご案内をお送りさせて頂きます。

網敷天神社 御本社 玉垣奉賛事業 事務局

電話 ○六一六三七一一五八六

※留守の時は留守電にご伝言下さい

メール tunashiki@jinja.jp

今月の暦



【祭礼】 北野祭 遷拜式(四日)：京都北野天満宮例祭を遷拜嵯峨天皇御降誕祭(七日)：嵯峨天皇さまの誕生日

【節供】 重陽の節句(九日)：五節句の一つ。長寿祈念。

【節気】 白露(七日)：大気が冷え始め、降りた露が白く光る頃 秋分(廿三日)：昼夜等分の候。秋風が訪れる頃

【雑節】 八朔(七日)：旧暦の八月一日。田の実の節句。 秋の彼岸(九月廿日〜九月廿六日)：お墓参り

【大安】 九月五日、十日、十六日、廿二日、廿八日

【祝日】 敬老の日(廿日) 秋分の日(廿三日)

【朔望】 朔月(五日)、上弦(十四日)、満月(廿一日)、下弦(廿九日)

【旬】 [野菜] 秋ナス、蓮根、日本南瓜、里芋、ずいき

[果物] 柿、梨、葡萄、ザクロ

[魚介類] 秋刀魚、カレイ、カタクチイワシ

[その他] 秋の七草、秋の夜長、スズムシ



網敷天神社 SNS、地図サイト

編者 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主) 白江 秀知

つなしき

